水と緑と歴史がおりなす笑顔あふれるまち

埼玉県行田市（ぎょうだ）

行田市建設部管理課長　**小池　博士**

行田市全景

行田市の紹介

行田市は、秩父連峰を望む関東平野の中ほど、埼玉県の北部に位置し、東京都心まで約 60km の距離にあります。市の北には利根川、南には荒川の大河川を抱え、その他多くの河川や水路が市内を縦横に流れる面積 67.37km^2 のほぼ平坦な地形をしています。交通面では、都心までを 1 時間程度で結ぶ JR 高崎線が市の南西部を、秩父鉄道が市の中央部を東西に走り、市民の通勤・通学の足となっています。

水と緑に恵まれた行田市は、国宝「金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）」が出土した稲荷山古墳をはじめ、日本最大の円墳である丸墓山など、9 基の大型古墳が郡集する東日本最大の埼玉（さきたま）古墳群を有し、埼玉県名発祥の地として知られています。また、古墳群からは、大陸との文化交流を示す旗を立てた馬型埴輪（はにわ）など、日本の古代史を語る上で欠くことのできない貴重な資料が見つかっています。

歴史と伝統に支えられた文化都市として、住民の多様な価値観にも対応できる機能を備えた質の高い生活を実現するまちへと着実に歩み続けています。

武蔵水路改築事業への期待

昭和30年代、首都圏では経済成長に伴う人口の増加や、生活の多様化により水道用水の需要の増加が著しくなりました。それに加え、昭和30年代後半から渇水が続き、東京オリンピック直前には深刻な水不足となり、真夏の首都は「東京砂漠」といわれるほどの厳しい状態となりました。そこで、既存の農業用水の安定化を軸に立案された利根導水路計画の一環として武蔵水路が計画され、都市用水及び浄化用水として利根川の水を首都圏に運ぶこととなりました。

武蔵水路は、通水開始から既に45年以上経過し、老朽化が大きな問題となっていたことから、水路延長約14.5kmの武蔵水路改築事業が平成22年度から進められています。改築にあたっては、地域の浸水被害を軽減する内水排除機能の確保・強化も図りながら、平成27年度の完成を目指しています。

事業の実施にあたっては、地域住民の多様な意見を踏まえ、水路周辺安全施設や修景施設などの整備を住民参加により実施するなど、行政等の関係者との連携も行われています。本改築事業により武蔵水路の魅力が向上し、地域に愛され親しまれる施設になることが期待されています。

見どころ・魅力いっぱい　行田市

忍城（おしじょう）御三階櫓　映画「のぼうの城」の舞台となった名城

市の中心部に位置する忍城は、室町時代の文明年間に築城され、豊臣秀吉の関東平定の際には、石田三成の水攻めに耐えた「浮き城」としても知られます。関東七名城の一つに数えられた忍城は、忍藩十万石の城下町の象徴となりました。現在の「忍城御三階櫓」は、明治時代に取り壊されたものを昭和63年に再建したもので、内部は郷土博物館の展示室の一部となっており、最上階からは市内を一望できます。

古代蓮の里　花蓮の名所

ここ行田で永い眠りから目を覚ました行田蓮の、その神秘的な美しさを満喫できる「古代蓮の里」。古代蓮の里公園内では、6月下旬から8月上旬にかけて、42種類12万株の花蓮を見ることができます。花弁の数が少ない原始的な形態を持つ行田蓮は、約1,400～3,000年前の蓮であると言われています。

甘くはないぜ！ ゼリーフライ

お菓子のゼリーとは全く別物。衣のついていないコロッケといったもので、そのルーツは、日露戦争の時、中国から伝わった「野菜まんじゅう」ということです。ジャガイモにネギやニンジン、さらにたくさんおからが入っているのも特徴で、食物繊維が豊富でヘルシーな食べ物です。名前の由来は、小判形であることから「銭フライ」と言われ、その「銭」がなまって「ゼリーフライ」になったと言われています。